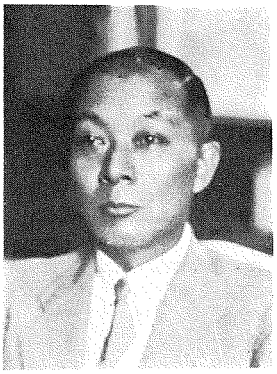
25年勤續の鐵道省を去つて

太田明治氏横濱市土木局長に就任す

横濱市と神奈川縣の土木大疑獄の後をうけて何人が其土木局長になるかと言ふ事は斯界の注目する處であつた。其所に思ひ掛なくも我が太田明治氏が就任したのである。

太田明治氏は25年間も鐵道に勤めた保線工務關係の功勞者である。既に幾度か鐵道省の局長に擬せられたが、技術家たるの故を以て定員以上には容れられなかつた。而して昨年10月の鐵道省大異動には一度廻れ右をして本省の保線課長から東京改良事務所長に轉じたのである。



東京改良としては今春から懸案の鐵道省の本建築を丸の内に起工する外、都市計畫に關連して驛や線路の增改築等多くの工事を控へてゐるが、何れも府市や民間との關係の頻繁な工事であるから、爰に太田氏を適任として向けたのであらう。然るに2ヶ月程で、太田氏が25年の鐵道生活を辭して、問題の横濱市土木局長に就任したのであるから、世人は何か特種の事情が伏在してゐると想像するのも當然である。が別に大した事情はないらしい。

横濱市の土木局長から助役になつた大岡大三氏と太田氏とは同鄉でもあり、高等學校時代の同窓でもあつたので、役所は別でも平素相當に親交はあつた樣だ。先般の大岡氏の問題に對しては太田氏も多大の同情を寄せてゐた事であらう。それで友人の名譽恢復と言ふ樣な意味もあつて、遂に横濱市の懇請を納れ、太田氏としては大なる決心を以て思ひ出深い鐵道省を去つたのである。尤も鐵道に於て局長になつたとしても移動の激しい處であるから永く其職に留まる事は出來ない。寧ろ此際後進の爲に途を拓くに良いチャンスでもあつた。

元來なら、府縣市等の土木關係は內務省の出身が占める慣例であるが，鐵道省出の市土木局長は太田氏が最初の一例をなすものと思はれる。

太田明治氏は明治42年の東京帝大土木科出身であるから、內務省の牧野下關土木出張所長其他の所長や民間では神原信一郎博士なども同期である。太田氏は鐵道省に入ると秋田、水戸、名古屋、神戸等の保線事務所長を經て本省に入り今日に及んだのであるが、其間歐米に出張して研究調査した處も多い。秋田保線に初めて勤務した25年前の冬の大雪に就て太田氏は鐵道生活を回顧しながら『正月だと云ふのに大雪の爲に20日間も汽車が不通になつた事もあつた。從業員と徹夜で作業もした、幾晩か貨車の中に寢泊つた、雪の爲には隨分難儀もし、叱られた事もあつた』と語る其太田氏が今日横濱市土木局長として新任早々市會議員や市民達の陳情攻めに會つてゐる有樣である。

横濱市としては市營埋立や、道路、下水、橋梁等都市計畫に關する工事も多くあるが、失業救濟豫算の漸減等で係員も憂色のある處へ、先般の大疑獄が突發したのであるから、暫時は仕事も手につかぬ狀態であつたらう。今や大風一過、公園傍の土木局は靜朗に返りつゝある、太田氏は其名の如く明かに治める人として其の處を得たものであらう。

（一記者）